

日本磁気共鳴医学会主導プロジェクト  
脳梗塞における MRI 検査の標準化に関する研究  
平成 19 年度第一回全体会議 議事録

2008 年 2 月 15 日 メルパルク横浜

出席者

五十嵐博中、井田正博、宇都宮英綱、大西貴弘、尾澤芳和、栢沢宏之、木村徳典、郷古泰昭、河野安宏、佐々木真理、佐瀬茂、七戸金吾、柴田靖、鈴木由里子、田岡俊昭、高木亮、高橋哲彦、玉井勲、傳法昌幸、原田雅史、林英昭、日向野修一、平井俊範、福田拓規、前田正幸、松井美詠子、Nielsen Matthew、松下明、百島祐貴、山田恵、渡辺嘉之、若林千恵子(五十音順、敬称略)

1. 佐々木より、本プロジェクトの昨年度までの活動成果および本年度以降の継続の経緯について説明があった。本年度も医師分科会、企業分科会、脳ドック分科会を中心に産学協同で脳梗塞 MRI 検査の標準化を推進していくこととした。また、各委員より自己紹介があった。
2. 佐々木より、平成 18 年度第一回全体会議、平成 19 年度脳ドック分科会第一回会議の議事録が提出され、承認された。
3. 日向野先生より、脳ドック分科会の活動について経過報告があった。文献の批判的吟味、読影実験、コンピュータシミュレーションなどの結果を元に脳ドックガイドラインの無症候性脳梗塞・無症候性白質病変に関する草稿が完成したことが報告され、内容が紹介された。  
今後、低磁場装置や 3T 装置の標準化やテント下病変・無症候性微小出血についても検討していくこととした。また、脳ドック自体の適否については中立的な立場をとり、MRI 検査の最適化の必要性を提言していくこととした。
4. 佐々木より国内外の急性期脳梗塞臨床試験・多施設研究の状況について報告があった。MRI を患者選択基準とする試験が増加しており、本プロジェクトの重要性が益々高まっていることが確認された。
5. 来年度の活動計画について議論した。血栓溶解療法において大動脈解離を否定する画像検査の戦略について考える必要があることが指摘された。また、PACS 端末における表示条件標準化、ADC 値の正規化手法、頸部血管検査の標準化などが今後の課題として話題に上った。これらを元に来年度の活動内容を検討していくこととした。

散会

(文責 佐々木)